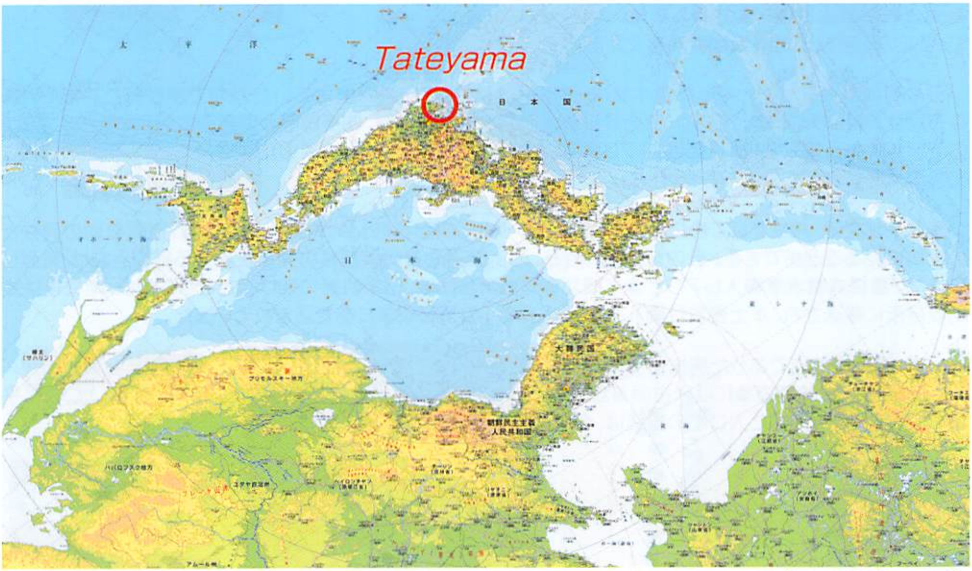
見る・歩く・学ぶ・集う

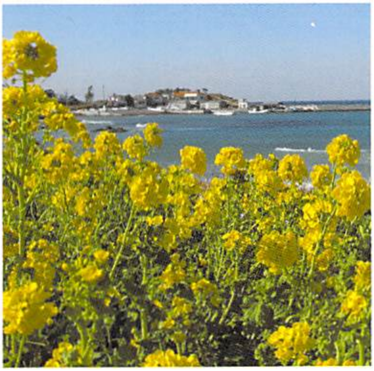
安房国再発見！

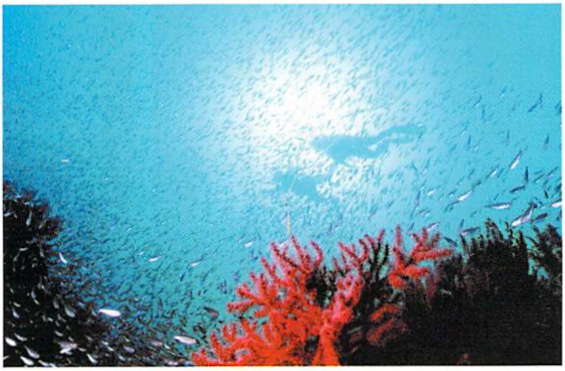
館山まるごと博物館

「まるごと博物館（エコミュージアム）」とは、地域住民が主体となって、魅力的な自然遺産や有形無形の文化遺産を再発見し、学習・研究・保全・活用・継承を通じて、地域活性化を図るまちづくり手法です。「館山まるごと博物館」は、魅力的な物語があふれています。



環日本海諸国図　この地図は、富山県が作成した地図を転載したものである。（平24情使第238号）





「平和の文化」と蘇りのまち・館山ものがたり

千葉県館山市は、古くから「安房国(あわのくに)」と呼ばれる房総半島南部の中心地である。地図を南北逆さに見てみると、弧を描いた日本列島の頂点に位置している。豊かな自然や歴史文化に恵まれ、アジア太平洋世界とつながってきた「館山まるごと博物館」を旅してみよう。

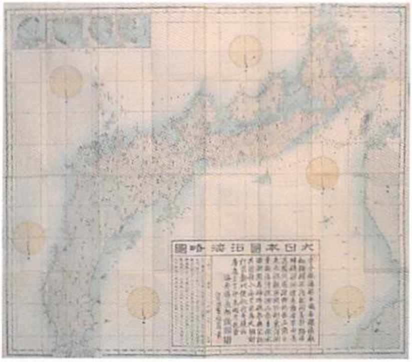
豊かな生態系に恵まれた館山だが、地殻変動の影響を大きく受け、日本で最も隆起した地質遺産の多いジオパークといえる。

地震や津波を乗り越えた絆と教訓は、信仰や祭礼とともに継承されている。西方浄土に霊峰富士を拝む信仰の地であり、多くの文人墨客に愛されてきた。海辺の癒しの地として、多くの医療伝道者も転地療養を支えた。

日本初の重要文化財となった青木繁の『海の幸』は、マグロ漁で栄えていた漁村で描かれた。風光明媚な布良は、神話のふるさとであり、美術界の聖地とも呼ばれている。曲亭馬琴の長編小説『南総里見八犬伝』のモデルになった大名・里見氏は、170年にわたって安房を治めた。多くの山城を築き、なかでも館山は、交易の湊をもつ城下町として発展した。

海洋民が交流・共生をしてきた歴史文化は、ハングル「四面石塔」や、朝鮮人海女の墓、遭難救助の碑などの史跡に見ることができる。その地理条件から、海上交通や近代水産業の発展に関わる拠点となり、貢献してきた。器械式潜水を導入しアワビ漁に成功した漁業移民は、日米親善の架け橋となりながら、開戦後は強制収容所に移送され、本土侵攻計画「コロネット作戦」の情報収集に巻き込まれていった。

一方、戦略的拠点であった房総南部は、東京湾要塞から本土決戦の帝都防衛を担い、重要な戦争遺跡が多く残っている。終戦直後には米占領軍が上陸し、「4日間」の直接軍政が敷かれた。戦時下においても、「平和の文化」を守ってきた人びとの物語は、今なお語り継がれ、育まれている。



「大日本国沿海略図」　勝海舟
1867(慶応3)年

「安房国全図」　鶴峰彦一郎
1849(嘉永2)年

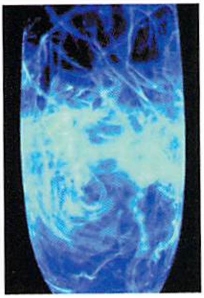
海とともに生きるまち

陽光が強く、沖合に黒潮と親潮が交わる安房では、森や海で豊かな生命が育まれてきた。海に丘陵が迫り、岩礁の多い複雑な地形のため、天然の良港に恵まれていた。人びとは漁労を営み、干したアワビを税として朝廷に貢納していた歴史もある。

のしアワビ

「鏡ヶ浦（菱花湾）」と呼ばれる波穏やかな館山湾は、北限域のサンゴやウミホタル、熱帯魚などが生息している。歩いて渡れる無人島「沖ノ島」は、タカラガイやイルカの耳骨などを拾うビーチコーミングや、シーサイドテラピーが人気のスポットである。

タカラガイ



ウミホタル

地震津波を乗り越えた知恵と祈り

房総半島の沖合には2つのプレートが沈み込み、日本一隆起しているといわれる安房では、海岸段丘や断層が多く見られる。内陸部には海食洞窟や縄文サンゴ地層、「200万年前の海底地すべり地層」があり、大山千枚田は地すべり地帯を工夫して棚田である。

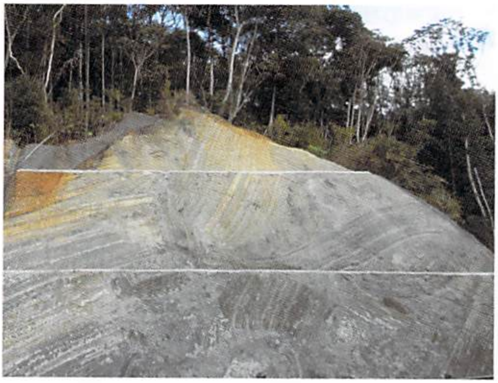
住宅街の路地に残るサイカチの古木は、元禄地震でよじ登った人が津波から助かったと伝えられ、葉が食用、実が洗剤、トゲが解毒剤にもなるという。

館山は、関東大震災で99%壊滅した。近代彫刻の祖・長沼守敬（ながぬまもりよし）は、亡くなった知人を供養するためにレリーフを作っている。

地震や津波のたびに困難を乗り越えた知恵や教訓が語り継がれ、コミュニティの絆は信仰や祭礼の形となって今に伝えられている。

震災供養レリーフ／長沼守敬作

サイカチの木



200万年前の海底地すべり地層

海岸段丘

信仰の聖地

館山湾から見る富士山の夕景

古代の人びとが住んでいた海食洞窟から、祭祀に用いた土器などが見つかっている。海洋民たちが崇拝した安房大神を祀った聖地が、のちに安房神社になったという説もある。大寺山洞窟遺跡からは、5～6世紀の舟形木棺に納められた人骨とともに、鉄の甲冑や武器などが出土している。海洋民のリーダーの墓であると考えられ、北欧のバイキングのような「舟葬墓」として日本で初めて確認された貴重な遺跡である。

洞窟遺跡ジオラマ（館山市立博物蔵）

安房神社

海の向こうの西方浄土に霊峰富士を仰ぐ信仰の地として、古くから多くの巡礼者が訪れている。千葉県内最古の磨崖仏をもつ崖観音（大福寺）、坂東三十三ヶ所巡礼の結願所である補陀落山那古寺など、多くの寺社仏閣がある。鶴谷八幡宮の祭礼は「やわたんまち」と呼ばれ、豊饒の恵みに感謝と祈りを捧げる伝統が今も脈々と続いている。

崖観音（大福寺）

やわたんまち（八幡祭礼）の御船

画家に愛された神話の里

館山最南端の布良（めら）は、神話のふるさとである。天富命（アメノトミノミコト）が阿波忌部（いんべ）一族を率いて上陸したといわれ、阿由戸（アイド）の浜には女神山・男神山がそびえ、水平線には富士山や伊豆大島・利島・新島・式根島などが連なって見える。

古くからマグロ漁で栄えた漁村で、明治期には富崎村といった。水難事故も多く、冬の夜空に輝く赤いカノープスは「布良星」と呼ばれ、亡くなった漁師の魂だという伝説もある。

布良崎神社から見た富士山

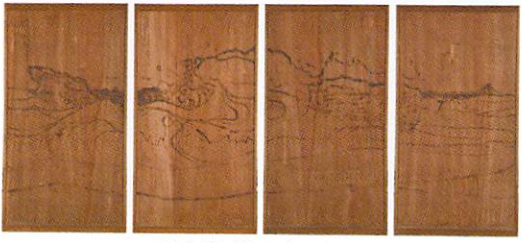
青木繁《海の幸》　石橋財団石橋美術館蔵　（重要文化財）

1904（明治37）年夏、画家の青木繁（あおきしげる）は、友人の坂本繁二郎・森田恒友、恋人の福田たねとともに布良を訪れ、『海の幸』を描いた。4人の滞在を世話した漁家の小谷喜録（こたにきろく）は、水難救助会看守長や村会議員も務めていた。

布良崎神社の祭礼では、男衆が1トンの大神輿を担ぎ、夕日の海に入っていく「御浜くだり」がある。勇壮な神事がインスピレーションとなって、『海の幸』の群像が生まれたのではないかと考えられている。

波の伊八《龍》　円光寺蔵

翌年、青木は身ごもったたねを伴って再び館山を訪れた。滞在した円光寺では、本堂の板戸4枚に焼釘で荒々しい海景を描いている。中央には岩に砕ける大波、右手には富士山、左手には伊豆の島々。その情景はまるで、円光寺にある龍の欄間彫刻に似ている。その作者は、波の伊八と呼ばれる江戸期の安房を代表する彫物師で、葛飾北斎など多くの芸術家に影響を与えたともいわれる。



青木繁《海景（円光寺板戸）》　個人蔵

青木繁「海の幸」記念館
小谷家住宅（館山市指定有形文化財）

築130年の分棟型民家。少子高齢化の進む漁村の活性化を目ざし、「青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会」が設立され、全国の画家とともに募金を進め、修復工事を経て2016（平成28）年春に公開となった。

▮所 在 地	〒294-0234 千葉県館山市布良1256
▮開 館 日	土・日曜（年末年始・お盆時期を除く）
▮開館時間	10:00〜16:00／10〜3月は15:00まで
▮入 館 料（維持協力金）	一般 200円　小中高 100円
▮友の会年会費	2,000円（特典:入館無料） 郵便振替 00150-6-616201 青木繁「海の幸」記念館

船田正廣『刻画・海の幸』ブロンズ

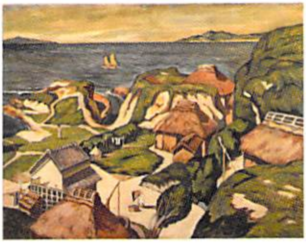
青木繁「海の幸」記念碑（生田勉設計）

布良は美術界の聖地と呼ばれている。壁画家の寺崎武男は館山に住み多くの神話を描き、安房神社や布良崎神社に奉納している。倉田白羊も妻の実家に近い館山に住み、児童自由画教育を推進した。新宿中村屋サロンで活躍した中村彝（つね）、晩年の青木に指導を受けた多々羅義雄、水彩画を広めた大下藤次郎など、多くの画家が館山を愛し、作品を残している。

寺崎武男《祖神を偲ぶ天富命の図》
安房神社縁起壁画

倉田白羊《水門》
館山市立図書館蔵

中村彝《海辺の村（白壁の家）》
複製:館山中村屋蔵



多々羅義雄《房州布良を写す》
千葉市立美術館蔵

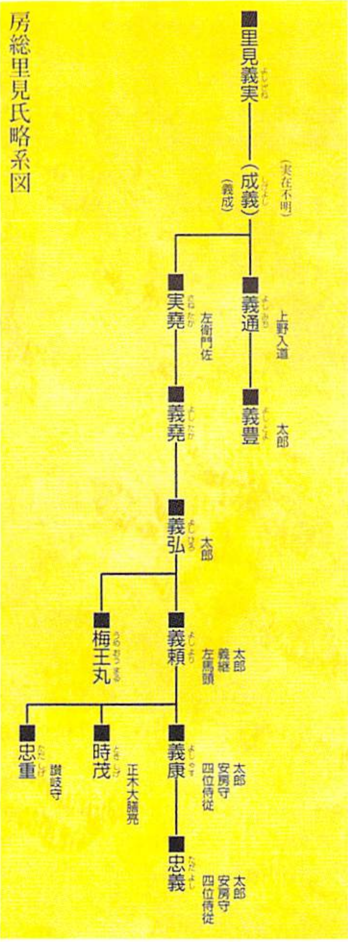
八犬伝のふるさと・里見のまち

15世紀半ばから170年の間、海の戦国大名・里見氏が、安房国を治めた。上野国榛名（群馬県）の新田氏を出自とし、初代・里見義実は白浜城を築いた。やがて安房の中心地に稲村城を築き、義通が国主となった。その子義豊のとき、1533（天文2）年に天文の内乱が起き、翌年には犬掛の合戦で討ち取られ、家督は分家筋の義堯にわたった。これ以降、稲村城は廃城となる。

その後、上総国へ進出した里見氏は、内海（東京湾）の制海権をめぐり、小田原北条氏と40年にわたって攻防を繰り返したが、義頼の平和外交策によって和睦が結ばれ、海上交易が活発になっていった。

16世紀後半には、豊富秀吉から上総領を没収された義康は館山城へ移り、高ノ島を流通の湊として新しい領国支配をおこない、館山は城下町として発展した。関ケ原の戦いで徳川についた恩賞を受け、関東最大の外様大名となったが、31歳で没した。

1614（慶長19）年、里見氏は改易を言い渡され、館山城は破却され、直轄領となった。最後の国主・忠義は伯耆国倉吉（鳥取県）に移封され、8年後に29歳で亡くなった。倉吉の神社に残る棟札には、安房の領民を心配する忠義の想いが書き残されている。

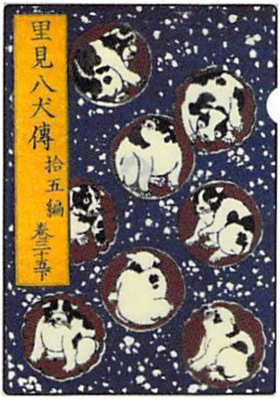


現在、館山城跡は市立博物館のある城山公園として市民に愛される憩いの場である。

稲村城跡は、後世にのこそうと願う市民の保存活動が実り、2012年岡本城跡とともに、国指定史跡となった。

里見氏が改易されて200年後の1814（文化11）年、江戸深川生まれの曲亭馬琴が28年かけて長編小説『南総里見八犬伝』を書きあげた。勧善懲悪をテーマとして、儒教の「仁義礼智忠信孝悌」と仏教の因果応報を織り交ぜて描かれている。里見義実の娘・伏姫と愛犬・八房の縁に導かれ、犬の名前と霊玉をもつ8人の若者が義兄弟となって、安房国を守るという物語。

馬琴は一度も安房を訪れることなく、『房総志料』（中村国香著）などの文献を参考にして、里見氏をモデルに書いたといわれる。富山、稲村城、滝田城など実在する地名やゆかりの人物が多く登場する。



八犬伝博物館と戦国コスプレイヤー

江戸のベストセラーとなった『八犬伝』は、時代を超えて歌舞伎や映画、人形劇などに演じられ、現代では『ドラゴンボール』などアニメやゲームのモチーフになっている。館山城山公園の頂上にある天守閣は、全国唯一の八犬伝博物館である。

仁 …思いやり、情け深い心

義 …正しいおこない

礼 …礼儀、礼節

智 …智恵、知性

忠 …まごころ、忠義

信 …信じる心、信頼

孝 …親に奉仕すること

悌 …年上を敬うこと

紙芝居『南総里見八犬伝』（愛沢彰子画）

大巌院のハングル「四面石塔」

雄誉霊巌（おうよれいがん）上人が開いた大巌院（だいがんいん）には、和風漢字・中国篆字・インド梵字・朝鮮ハングルで「南無阿弥陀仏」と刻まれた「四面石塔」がある。特にハングルは創成初期の東国正韻式の旧字体であり、韓国にも例のない貴重な文化財である。

建立された1624（元和10）年は、豊臣秀吉の朝鮮侵略（文禄の役）から33回忌にあたり、日本に連行された朝鮮人を帰還させる外交事業も行なわれていることから、平和祈願をこめた供養塔ではないかと考えられている。寄進者の山村茂兵の素性は不明だが、朝鮮人である可能性も推察される。

伝記によると、大巌院に立ち寄った朝鮮人が霊巌上人の業績を尋ね、「現身の仏陀なりと嘆徳」したと記されている。日韓交流史をひもとくうえで重要な寺院として注目されている。

一方、幕府に取り立てられていた霊巌上人は、江戸の湿地帯を埋め立てた地に霊巌寺を開いた。ここは霊巌島と呼ばれて房州航路の湊となり、館山から新鮮な魚が送られ、江戸からは文人墨客が訪れた。

霊巌上人直筆の額

済州島からきた韓国海女の墓

太平洋に面した和田浦（南房総市）という漁村には、戦前から出稼ぎにやってきた韓国済州島の海女たちが住んでいた。慣れない異国で苦労しながらも、地元の海女たちと一緒に海に潜り、冬は花を作りながら生きてきた。

海を見下ろせる長興院（鴨川市）は、「済州道水産開拓者・朴基満之墓」をはじめ、多くの韓国人が眠る墓所となっている。

清国船「元順号」遭難救助の碑

1780（安永9）年、清国貿易船「元順号」は、交易地の長崎に向かう途中で遭難して黒潮に流され、安房国千倉（南房総市）に漂着した。嵐の中、漁師たちは懸命に救助し、手厚く介護した。

200年を経て埼玉県岩槻の人びとによって歴史が掘り起こされ、1980（昭和55）年、千倉海岸に「日中友好」と刻まれた記念碑が建てられた。

韓国にある日本の実習船「快鷹丸」遭難紀念碑

20世紀になると、水産講習所の館山実習場が開かれ、本格的な水産教育が進められた。館山湾で訓練していた日本初の実習船「快鷹丸（かいようまる）」は、1907（明治40）年に出漁して朝鮮海域で嵐に遭難した。韓国浦項（ポハン）の漁師たちに救助されたが、4人の学生と教員が亡くなり、1926（大正15）年に遭難紀念碑が建てられた。

戦争を経て、1945（昭和20）年、日本の支配に対する感情から碑は倒されたものの、1971（昭和46）年、土泥から掘りおこされ、「海に生きる男の友情の証」として韓国の漁師と東京海洋大学の同窓会「楽水会」によって今も守られている。

近代水産業のあゆみ

館山湾内の新井浦から柏崎浦にかけての浜や髙ノ島は、物産の津出しの湊として江戸期より栄え、明治期以降は近代水産業発展の拠点として重要な役割を果たしてきた。その中央に位置する北下台（ぼっけだい）は、海上交通の守り神として信仰される琴平神社を中心とした歴史公園。航路標識であった正木燈台の跡や遭難供養碑などがある。

正木燈台跡

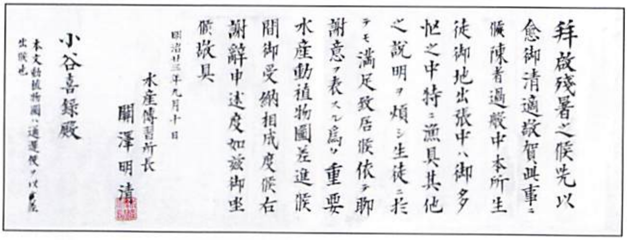
欧米の万博に学んだ関沢明清は、サケ・マスの人工ふ化や缶詰製造、捕鯨銃などの技術を導入し、国策として近代水産業を発展させた。1889年に水産伝習所を開き、初代所長として人材育成に尽力した。後に、関沢は所長を辞して自ら館山に居住し、水産会社を興し、房総捕鯨の祖・醍醐新兵衛と組んで遠洋捕鯨に成功している。

水産伝習所は官立の水産講習所となり、1901年から北下台のふもとに館山実習所が開かれた。後に東京水産大学を経て、東京海洋大学となった今なお実習所が置かれ、北下台には、関沢の功績を称えた巨大な顕彰碑が建っている。関沢の没後、遺志を継いだ弟の鏑木余三男は、小原金治や神田吉右衛門らとともに房総遠洋漁業株式会社を興し、冬はマグロ漁、夏は捕鯨やオットセイ漁を行った。

マグロ漁で栄えていた富崎村長の神田は、アワビ漁を村営にして収益を共有財産とし、道路や漁港の整備、漁船改良、海難救助、学校設立などの公共事業を展開した。

青木繁「海の幸」誕生を支えた小谷喜録は、神田とともに村政に関わっており、水産伝習所の実習を世話したお礼状と「日本重要水産動植物之図」が関沢から贈られた。

この実習で教員として同行していた内村鑑三は、神田と出会い語り合ったことが人生の転機になったと自著に記している。



拝啓残暑之候先以
愈御清適欣賀此事ニ
偖陳者過般中本所生
徒御地出張中ハ御多
忙之中特ニ漁具其他
之説明ヲ煩シ生徒ニ於
テモ満足致居候依テ聊
謝意ヲ表スル爲メ重要
水産動植物圖差進候
間御受納相成度候右
謝辭申述度如斯御坐
候敬具
明治廿三年九月十日
水産傳習所長
關澤明清
小谷喜録殿
本文動植物圖ハ通運便ヲ以差出候也

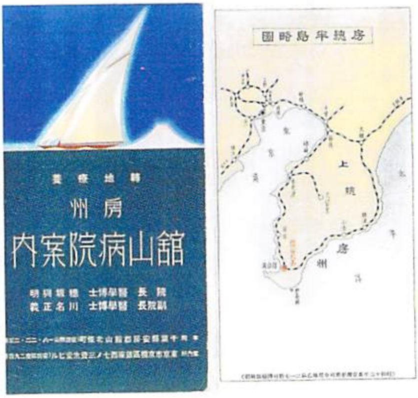
関沢の書状と「日本重要水産動植物図」（小谷家蔵）

海辺の癒しのまち

明治期には、温暖な海辺の館山は転地療養の地となり、多くの人が東京の霊巌島から船でやってきた。北下台には海水を利用した湯治場も開かれ、1891（明治24）年には住民の出資によって館山病院がつくられた。初代院長・川名博夫は、近代医学に貢献したドイツ人医師のベルツ博士から指導を受け、全国に先駆けてサナトリウム（結核療養病棟）を開いた。川名夫人の父・福原有信は、松岡村（現館山市）生まれで、銀座資生堂薬局の創業者であり、館山病院は広く政財界に知られた。

明治期の北下台

松岡八幡宮（福原有信が奉納した鳥居）



昭和初期の転地療養パンフレット

実業家の渋沢栄一は、東京の虚弱児童の療養施設として東京府養育院安房分院（現船形学園）を館山に開いた。福原と姻戚関係にあったため、渋沢の渡米時には館山病院二代目院長の穂坂与明が侍医として同行している。

一方、秦呑舟（はたどんしゅう）やコルバン夫妻といったキリスト教医師による医療伝道も、転地療養のネットワークを支えた。妊娠中で結核を患った石川啄木未亡人・節子も八幡海岸の片山かの宅で療養し、次女房江を出産した。文学者・山村暮鳥は北条南町に療養滞在中、自己を自然に預ける超俗の精神に辿り着く。画家の中原淳一が療養した塩見の浜辺には、美しい詩碑が建っている。

中原淳一の詩碑
©JUNICHI NAKAHARA/ひまわりや

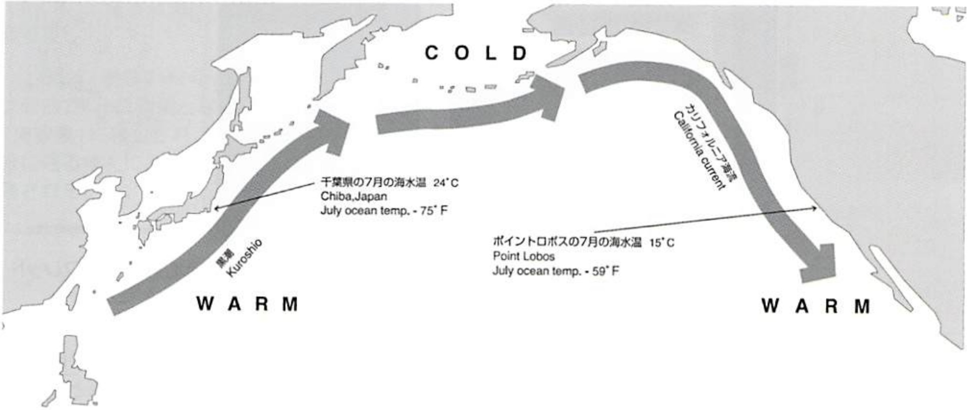
太平洋を渡ったアワビ漁師たち

明治中期より、小谷源之助・仲次郎兄弟をリーダーとする房総アワビ漁師たちは渡米し、モントレーで器械式潜水のアワビ漁に成功した。弟の仲次郎は帰国し、地域の水産教育に尽力し、潜水夫の供給を行った。

「万祝（まいわい）」という漁師の着物には、日米の国旗とUSAの文字が染められている。日本人初のハリウッド俳優・早川雪洲は千倉の出身で、兄が渡米したアワビ漁師だった。日系人村のゲストハウスには、政治家の尾崎行雄や画家の竹久夢二らが滞在している。

しかし戦争がはじまると、日系人は砂漠の強制収容所に送られた。米軍への忠誠を求められ、コロネット作戦の情報収集に協力させられた。日米に別れた家族はバラバラになり、アワビ漁師の歴史は幕を閉じた。

万祝

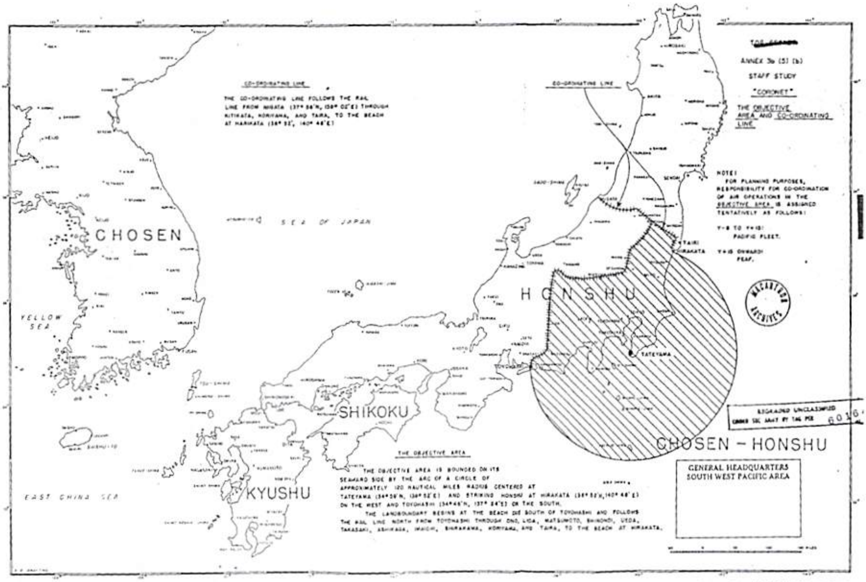


器械式潜水

ゲストハウス（中央は尾崎行雄・竹久夢二）

アメリカのアワビ

コロネット作戦とアメリカ占領軍の「直接軍政」



コロネット作戦計画図

アメリカ軍は、関東一円をターゲットにした日本本土侵攻計画「コロネット作戦」を立てた。その中心地は、館山を指している。これは、日系人強制収容所に入れられたモントレーの房総アワビ移民から情報収集したと考えられている。

敗戦となり、ミズーリ号の降伏文書調印式の翌日、アメリカ占領軍3,500名が館山に上陸し、本土で唯一「4日間」の直接軍政が敷かれた。近年、市民の調査によって忘れられていた歴史が明らかになり、日米の市民交流が行なわれている。

上陸地の今

1945.9.3 AM9:20　館山にアメリカ占領軍上陸

戦争遺跡をまちづくりに活かす

1995年、広島原爆ドームがユネスコの世界遺産に登録されるようになると、日本の文化庁でも、戦争遺跡を文化財として認めるようになった。

館山では一般公開となった「館山海軍航空隊赤山地下壕跡」は、日米開戦前から掘られていたという重要な証言がある。内部には、発電所や兵器格納庫のほか、奉安殿（ほうあんでん）や病院などの施設があった。平和学習だけでなく、壁面には隆起や断層などの立体的な地層が見られ、総合学習の場といえる。

市内には戦闘機を格納する掩体壕（えんたいごう）をはじめ、「戦闘指揮所」「作戦室」という額や龍のレリーフが残る地下壕など、全国にも重要と認められた戦争遺跡が、未整備のまま多数点在する。館山市では、戦争遺跡を組み入れた都市づくりの目標像として「地域まるごとオープンエアミュージアム、館山歴史公園都市」構想を掲げている。

赤山地下壕跡（館山市指定文化財）

掩体壕

龍のレリーフと「戦闘指揮所」の額がある「128高地」地下壕（1944年）

戦後60年には、館山の戦争遺跡を舞台に、平和祈念映画『赤い鯨と白い蛇』が制作されました。

戦争遺跡は平和の語り部

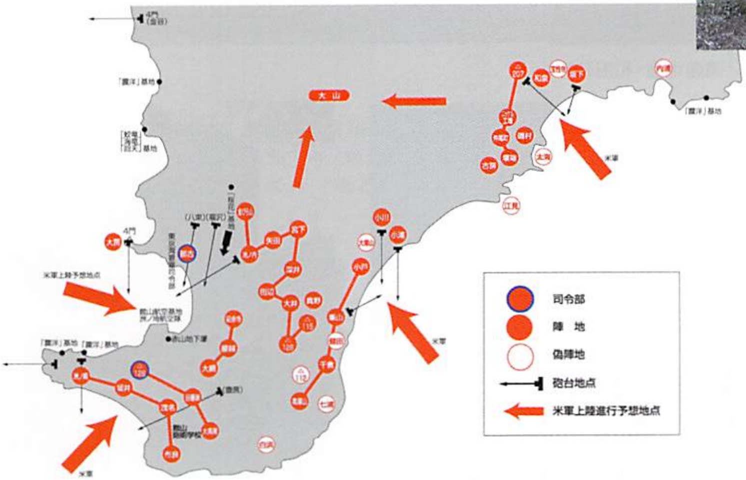
東京湾入口の館山は、幕末から台場が設置され、明治以降は東京湾要塞に位置づけられた。関東大震災で隆起した海を埋め立てて、1930年に「館山海軍航空隊」が開かれた。空母パイロットや落下傘部隊の実戦訓練の基地となり、中国重慶やハワイ真珠湾をはじめ、南方の島々への奇襲攻撃を成功させている。

戦争末期になると、安房は本土決戦体制となり、人間魚雷「回天」や特攻艇「震洋」、人間ロケット「桜花」などの特攻基地が次々と作られた。7万人の兵士が送り込まれ、農家には花作り禁止令が出されて、花畑は芋畑に変えられた。苗や種は焼き捨てられたが、花を愛する農民はひそかに抵抗し、こっそりと種や球根を隠し残した。

子どもたちもまた、夜間戦に備えた軍用物資としてウミホタル採取を命じられた。戦争が終わると、再び花作りが始められた。これらの実話は小説や音楽物語などに描かれ、今に語り継がれている。

東京湾要塞
（砲台の編成と射界）

弾薬庫



安房の「本土決戦」配備計画（1945年）

「平和の文化」を未来に

1945年11月、世界平和のために設立されたユネスコ(国連教育科学文化機関)憲章前文には、「戦争は人の心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和の砦を気づかなければならない」と謳われている。この理念に共鳴し、館山では1948年に民間ユネスコ運動が始まり、今なお世界で唯一ユネスコの名がついた保育園が運営されている。

「平和の文化」とは、争いを対話によって解決していこうとする考え方や行動様式のことである。ユネスコの提唱を受けて、国連は2000年を「平和の文化国際年」と宣言し、2001～10年を「世界の子どもたちのための非暴力と平和の文化国際10年」と定めた。私たちもこの理念を継承して、地域の文化遺産を活かして人々が支え合う持続可能な地域社会を未来に手渡したいと願っている。

国連に寄贈した錦綴織／遠藤虚籟・和田秋野

錦綴織(にしきつづれおり)作家の遠藤虚籟(えんどうきょらい)と和田秋野は、戦前戦後に館山に暮らした。1951年、戦没者供養と世界平和を祈って「曼荼羅中尊阿弥陀如来像」を織り上げ、全日本仏教徒の総意として、国連NY本部に寄贈した。

長崎平和祈念像で知られる彫刻家の北村西望(せいぼう)は、1928年安房水産学校長の銅像を作ったが、金属の不足した戦時下に供出を命じられた。その時教員たちは石膏で型を残し、戦後に同窓会が再建している。

戦後、キリスト教牧師・深津文雄は、戦争で苦しんだ女性たちの保護施設「かにた婦人の村」を、世界中の支援を受けて館山に開いた。ここで暮らす城田すず子(仮名)の告白を受けて、戦後40年の時に「噫従軍慰安婦」と刻まれた慰霊碑が建てられた。その12年前に、鴨川市にも「名もなき女の碑」と刻まれた碑が建立されている。

歴史に育まれた「館山まるごと博物館」には、安房の先人が培ってきた「平和・交流・共生」の精神が輝いている。それはまさに、現代に生きる私たちの祈りともいえる。

安房水産学校長銅像

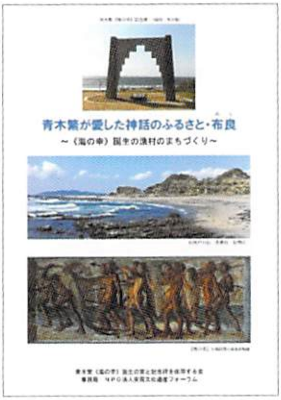
「噫従軍慰安婦」碑

「名も無き女の碑」

書籍の紹介

DVD『館山まるごと博物館』
『南房総の戦争遺跡』　各600円

『館山まるごと博物館』
600円（B5／64頁）



『青木繁《海の幸》誕生の漁村まちづくり』
600円（A4／32頁）

『ヘリテージまちづくりのあゆみ』
1,000円（A4／128頁）

あわがいど①
『戦争遺跡』
600円（A5／48頁）

あわがいど②
『房総里見氏』
600円（A4変形／32頁）

漁村のレシピ集
『おらがごっつお』
600円（A5／64頁）

小学生が作った
『タカラガイ図鑑』
600円（A6／64頁）

【入会案内】

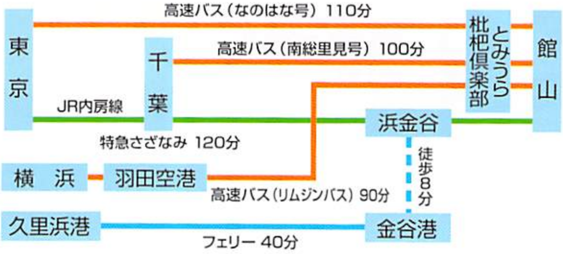
● A会員：NPOの趣旨に賛同し、日常の活動や運営を支え、年1回の総会に参加する個人。
　＊年会費：2,000円

● B会員：NPOの趣旨に賛同し、情報を共有し、あるいは資金等の援助をする個人または法人。
　＊年会費：個人1,000円、法人10,000円

・振替口座：ゆうちょ銀行00260-1-97307　名義：NPO法人安房文化遺産フォーラム

“平和・交流・共生”の歴史文化をたずねる安房の旅

アクセス



小高記念館（国登録文化財）

NPO法人 安房文化遺産フォーラム

〒294-0036 千葉県館山市館山95 小高記念館
TEL&FAX：0470-22-8271
ホームページ：http://bunka-isan.awa.jp/
Eメール：awabunka@awa.or.jp